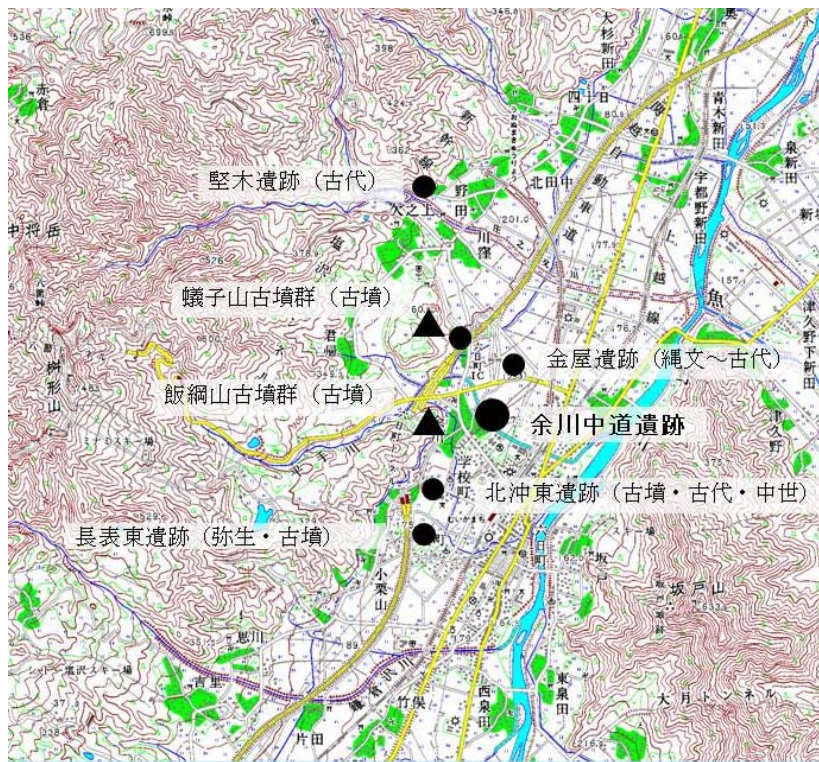


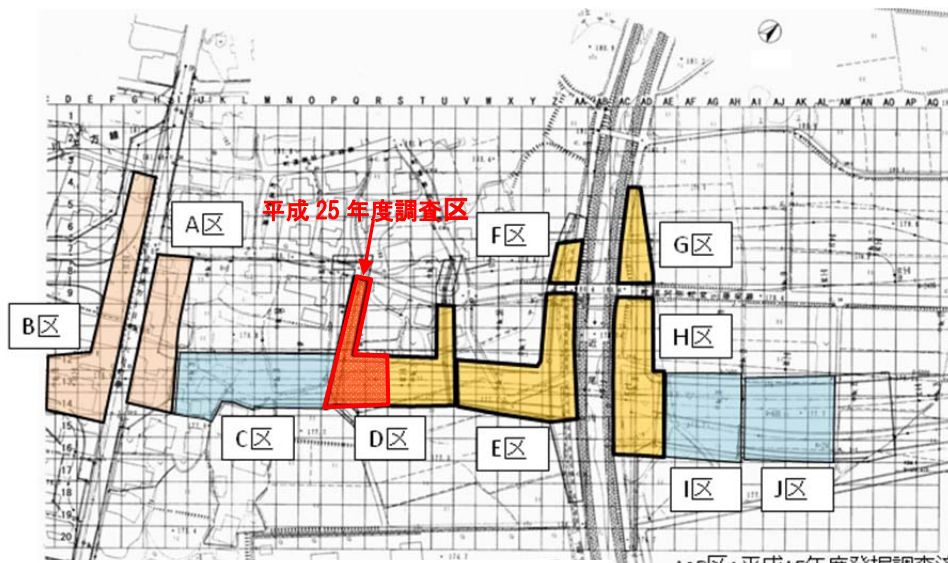
1 調査の概要

余川中道遺跡は、南魚沼市余川字江端ほかに所在します。平手川や近尾川により形成された扇状地(緩やかな傾斜地)に立地することから、調査区の各所に、様々な時期に発生した洪水や土石流の痕跡を見ることができました。

当遺跡は、一般国道17号六日町バイパス建設事業に伴い、平成15・21年度に続き、今年の6月から3回目の発掘調査をしてきました。調査面積は800㎡ですが、遺跡が3面重なっていたため、累計で2400㎡を調査しました。今回の調査区では、古墳時代の水田を検出しました。途中で洪水堆積物をはさみながら、上から上層・中層・下層に分けることができます。水田であることから、遺物が少ないものの、古墳時代中期ころの遺物が出土しています。今後、遺物の詳細な分析とともに理化学的な分析を行って、年代を特定していく予定です。洪水災害にたびたび見舞われながらも、水田を復旧していった様子を観察することができました。



余川中道遺跡の位置と周辺の主な遺跡



余川中道遺跡調査範囲図 (1:2,000)

A・B区:平成15年度発掘調査済(赤色)
C・I区:発掘調査未済(青色)
D~H区:平成21年度調査(黄色)

2 見つかった遺構

上層の水田

平成21年度調査で発見した水田を、今回の調査で詳細に分析し、畦の作り方を読み取ることができました。ただ単に土を盛るのではなく、粘質土と砂質土を交互に盛ることで、より強い畦としたようです。また、粘質土には小枝が埋め込まれていました。補強や沈下を防ぐ働きがあったのかもしれませんが。



上層の水田